

SACHIKO 小林幸子

わたしは
あきらめない

NHK
「わたしはあきらめない」
制作班+KTC中央出版・編

観客の驚きのため息を聞いた。
——暗転の舞台を15年間耐えて、
ポツリポツリと点いた灯は、
瞬く間にあたり一面の光の洪水になった。
NHK「紅白」の華麗な衣裳を
この光が注ぎ続けている。

小林幸子

歌手生活40周年記念出版

KTC中央出版



NHK「わたしはあきらめない」制作班

制作統括 北出 晃 三浦 晴治
ナレーション 石丸 純
撮影 入江 領
技術 羽場 政英
映像技術 小野 浩史
編集 出口 泰男
音響効果 山下 博文
美術 宮崎 もりひろ
取材 成川 功修
構成 河村 誠

共同制作 NHKエンタープライズ21
制作・著作 NHK

司会 長嶋一茂・武内陶子(NHKアナウンサー)

協力  プロモーション

造本設計 桂川潤

小林幸子 わたしはあきらめない

2003年6月5日 初版第1刷発行

編者 NHK「わたしはあきらめない」制作班
KTC中央出版

発行人 前田哲次
発行所 KTC中央出版
〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目22-16 ミナミビル
振替00850-6-33318 TEL052-203-0555
〒163-0230
新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル30階
TEL03-3342-0550

編集 (株)風人社
東京都世田谷区代田4-1-13-3A
〒155-0033 TEL 03-3325-3699
<http://www.fujinsha.co.jp/>

印刷 図書印刷株式会社

©NHK 2003 Printed in Japan ISBN4-87758-289-4 C0095
(落丁・乱丁はお取り替えいたします)

本書のカバーを開くと、1枚のグラビアになります。また、その1枚を上・下部の折れ目に沿って裁断すると、カバー・帯・グラビアの3部分になります。



SACHIKO

小林幸子

わたしは
あきらめない

NHK「わたしはあきらめない」制作班＋
KTC中央出版・編

KTC中央出版

9歳のチャンピオン

帯は特注のスカーフ	16
紅白の衣裳は「セツト」装着	17
東京見物連れてつてやる	18
父が勝手にオーディションに応募	19
歌手になりたかった父	20
古賀先生に認められて	21
母は大反対だった	22
親族会議でも決まらず	23
9歳の「人生の選択」	24
母のカッコイイ後ろ姿を見て、店を継ぎたい	25

私の結論に母は泣いた 26

突如、着物のたたみ方を教えた 27

〈9歳のチャンピオン〉の背景 28

ウソツキ鵒

単身、10歳で上京	34
無言電話で母の声を聞いた	35
古賀先生が作ってくれたデビューの着物	37
もし、デビュー前に大地震だったら	38
『ひばり・世誕生』事件	39
大人の豹変で、顔色を見る子どもになった	41
大人の心がわかる子ども	42
甘えることをずっと封印してきた	44
〈ウソツキ鵒〉の背景	45

苦節15年

- 年を「まかしてキャバレーで歌った」 52
大黒柱になってくれたこともあった 54
ギラギラのドレスは若いころの反動かも
捨てられた歌詞カードは自分みたい 55
空のお風呂に入るのは 59
歌うこと、イコール生活だった 60
5円からのスタートで40年 62
〈苦節15年〉の背景 63

おもいで酒

- 大ヒット「おもいで酒」はB面 70
背中押されたキャンペーン 72
有線1位の曲は誰が歌ってますか 74

「集まってください」が「押さないで」に 75
楽屋・旅館・ホテル……新人には絶対聞かない

〈おもいで酒〉の背景 78

私の「紅白」

紅白の衣裳は「おまけ精神」 84
スーパーステージを素晴らしいと思って
母は反対していてもいちばんの理解者 85
自分自身が素敵なブランドであつたらしい 87
89
〈私の「紅白」〉の背景 91

小林幸子デイスコグラフィー 93～95

1979年「おもいで酒」
紅白初出場



1980年
「とまり木」



1982年
「おもいで酒」



1981年
「迷い鳥」



1984年
「もしかして」



1983年
「ふたたびの」





1986年「別離」
◆衣裳名:クレオパトラ



1985年「夫婦しくれ」
◆衣裳名:十二単



1988年「雪椿」
◆衣裳名:能の衣裳



1987年
「雪椿」

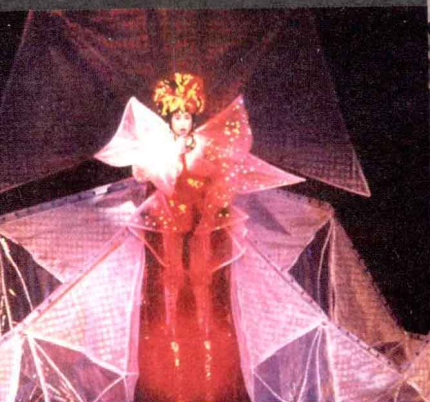


1990年「天命燃ゆ」
◆衣裳名:東洋の神祕

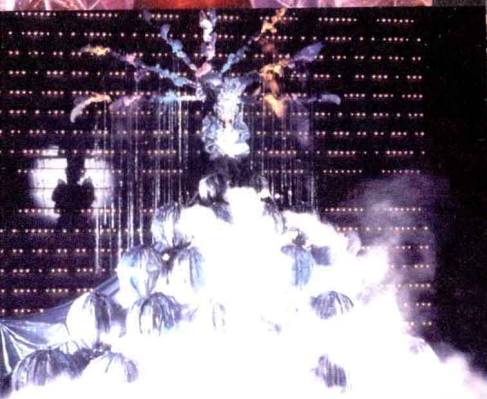


1989年「福寿草」
◆衣裳名:天女

1991年「冬化粧」
◆衣裳名:冬の鳥

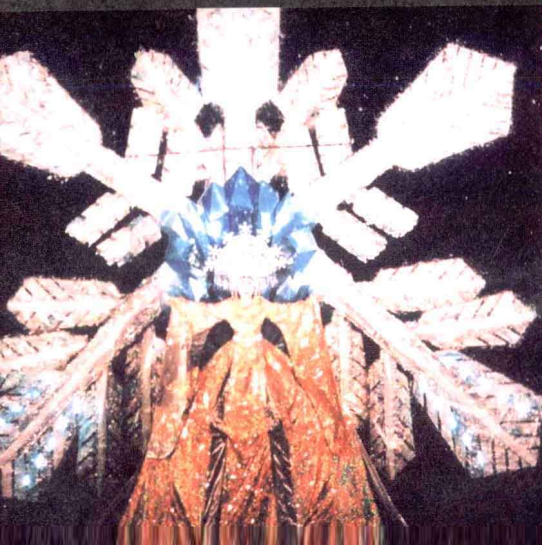


1992年「恋蟹」
◆衣裳名:光のファンタジー



1993年「約束」
◆衣裳名:黄金の巨大スベクトル「ベガス」

1994年「雨の屋台酒」
◆衣裳名:人間ナイアガラ



1995年「母ひとり」
◆衣裳名:21世紀の観音様

1996年「越後情話」
◆衣裳名:雪女



1998年「風といっしょに(ポケモンテーマ)」

◆衣装名:ヒューマンファンタジー



1997年「幸せ」

◆衣装名:生命誕生



1999年「やんちゃ酒」

◆衣装名:2000年のかぐや姫

2000年「泣かせ雨」

◆衣装名:愛傘



2001年「夢の涯て〜子午線の夢〜」

◆衣装名:フラワーオブ・ドリーム

2002年「雪泣夜」

◆衣装名:氷の女王



楽屋の踊り子たちがどっと笑った。

「ああ、今年ももう少して終わりねえ」

「来年は、レコード大賞にでも出てやるか」

1978年12月31日大晦日。

翌元日から2か月間、伊東のハトヤホテルで宴会でのショー公演のためのリハーサル直前だった。

メークをしていた鏡にテレビが映っていた。レコード大賞の中継だった。

続いてNHKの紅白歌合戦。

「ずーっと断つてきたけど、来年はちょっと出てやるか」

また楽屋中が笑いに包まれた。

自分も笑っていた。このときまで14年間、

30枚に及ぶレコードを出しながらも売れない「暗黒時代」に、

そろそろ思いつけた「流行歌手」の夢は消えかかって、最後になるだろうレコーディングも終えていた。

楽屋のみんなも、そして自分も、腹から笑えるジョーク。それほどにその夢は遠くになっていた。

しかし——翌1979年の同じ時刻、

小林幸子は、そのジョークの通りの運命を自分の手にすることになる。



よ、八時あなたは

小林



「もしもし、つかぬことをおうかがいしたいのですが、今そちらでリクエスト1位の曲って何ですか？」

「えーと、おもいで酒です」

「あのう、歌っている人は誰ですか？」

「誰って、ああ、小林幸子」

1979年正月、

伊東ハトヤホテルの新春公演が始まってすぐ、

楽屋に東京の事務所から電話が入った。

「おもいで酒」が有線放送でランク入りしている。

当時ヒットしていた「夢追い酒」の間違いだろう。

2月、公演の終わり近くになると、あちこちの有線放送のランキングで1位になっている。

しかし、そうたやすく信じられるものか。

おもいで酒



教えられた尾崎の有線放送の電話番号に自分で電話をかけて確かめてみた。訝しがる受話器の相手に向かって、「ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございました」を連発していた。

3月、「六時、七時、八時あなたは……」のB面だった「おもいで酒」をA面に切り換えて発売。それが200万枚の大ヒットとなった。

——遠くに見えていた小さな灯が、あっちにぼつつ、こっちにぼつつとしだいに増え、その光が導火線に火をつけたようにぼぼと広がり、気がついたらあたり一面、光の洪水になっていた、というのが、私の当時の正直な実感です。

1978年大晦日のジョークは、翌年以降、「紅白」の連続出場となり、その舞台衣裳に溢れる光は、15年の闇が深かったからこそまばゆいばかりのものとなって、見る人に感動を与え続けている。

9歳 のチャンピオン



小林幸子は新潟市内の精肉店の三女として生まれた。

ある日、歌好きだった父が

内緒で素人歌番組に幸子の名前で応募する。

その一枚のハガキが、幸子の人生を大きく変えることになる。

「東京見物」と父に連れていかれたのは、テレビ局。

戸惑いながらも、幸子は大人顔負けの熱唱で、



歌番組を勝ち上がっていく。そして、ついに

グランドチャンピオン。

9歳の時だった。

この時、審査をしていたのが昭和の大作曲家・古賀政男。

歌の素質を見抜いた古賀政男は

自ら幸子のスカウトに乗り出す。